

鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 メタンハイドレート科学コース開設記念講演会

日本海の表層型メタンハイドレートから 広がるハイドレート研究の世界

日 時：平成28年1月29日（金）
16:30～18:00

場 所：鳥取大学工学部大講義室（大学院棟2階）

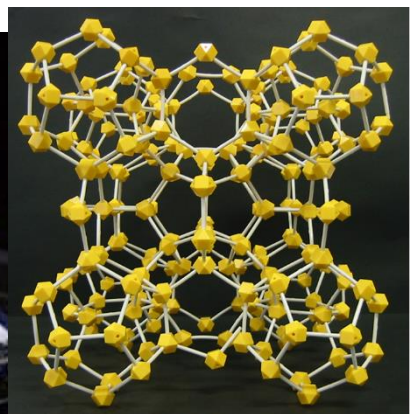
参加費：無料

主 催：鳥取大学大学院工学研究科

共 催：鳥取県生活環境部

海底に露出するメタンハイドレート（明治大学ガスハイドレート研究所提供）

メタンハイドレートは、“燃える氷”とも呼ばれて広く知られるようになり、新しい国産天然ガス資源として期待されています。特に、日本海の数多くの地点で確認された表層型メタンハイドレートについては、近年の活発な調査研究により、世界に先駆けて、その賦存状況が明らかに成りつつあります。この表層型メタンハイドレート開発に係わる人材育成を目的に、平成27年10月に、鳥取県の寄附講座として、鳥取大学大学院工学研究科にメタンハイドレート科学講座が設置されました。平成28年4月から、いよいよ講義も始まります。今回の記念講演会では、メタンハイドレート研究の第一人者であり、メタンハイドレート科学コースの設立・運営にもご協力戴いている松本良 明治大学特任教授（東京大学名誉教授）をお招きして、日本海の表層型メタンハイドレート研究の現状とともに、メタンハイドレート研究から広がる微生物などの新しい研究分野を含めてご紹介戴きます。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。



お問合せ先：

鳥取大学メタンハイドレート科学講座

電話 0857-31-5315（担当：海老沼）

プログラム

16:30～16:35 開催挨拶

鳥取大学大学院工学研究科長・教授

河田康志

16:35～17:35

招待講演「表層型メタンハイドレート研究から生物-資源-環境の大循環が見えてくる」
明治大学研究・知財戦略機構ガスハイドレート研究所代表 特任教授

東京大学名誉教授

松本 良

メタンハイドレート研究は3つの柱からなります。第1の柱はメタンハイドレートがいつどこでどのように出来たのか、という最も根源的な課題です。地球科学的アプローチにより特異な形成史をもつ日本海がユニークな場を提供していることが分かってきました。有機物の微生物分解と熱分解が膨大な炭化水素を生成したことが決定的な制約条件となっています。今、地球微生物学はハイドレート研究の中で最もホットな分野と言えるでしょう。第2の柱は資源ポテンシャルの評価です。メタンハイドレートがこれほどの注目を集めているのは資源としての期待であり最近数年の集中的調査は正にこの一点に絞られていると言っても過言ではありません。日本海表層型について基本的な産状と分布の概要は明らかとなり、いまやより工学的・技術的アプローチが重要度を増しつつあると言えます。メタンハイドレートが持つより本質的な課題は地球環境との関わりでこれが第3の柱です。メタンハイドレートが生成する過程ではなく、分解消滅する過程で起こるのであろう、いまだ十分に解明されていない海洋と地球の応答過程。日本海の海底で進行しているメタンハイドレート“現象”は地球大循環の理解に迫る格好のフィールドを提供しており、私達の科学的好奇心と探究心を刺激して止みません。

17:35～17:55

「メタンハイドレート科学コースの紹介」

鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻メタンハイドレート科学講座

寄附講座教授

海老沼孝郎

メタンハイドレート科学講座は、鳥取県の寄附講座として、表層型メタンハイドレートに係わる海洋調査、ガス生産のための技術開発、環境影響評価などを担う即戦力となる高度な技術者を地元で育成することを目的に設立されました。平成28年度から5年間、大学院工学研究科社会基盤工学専攻に新たに設置されるメタンハイドレート科学コースとして、一学年5名程度の博士前期課程の学生を受け入れる予定です。授業科目は、メタンハイドレート概論、地球科学概論などの講義に加えて、鳥取県水産試験場の調査船上で実施する海洋調査演習など、フィールドでの実践的な教育も重視したものとなっています。今回は、メタンハイドレート科学コースの概要をご紹介しますとともに、ガスハイドレートの特異な物性と工業利用についても話題提供する予定です。

17:55～18:00 閉会挨拶

鳥取県生活環境部長

中山貴雄